

令和7年度農林水産技術会議結果概要

農業技術センター

開催日	令和7年12月19日	開催場所	農業技術センター
部会名	研究課題設定部会		
評価課題	スイートピー春咲き性品種の育成および安定生産技術の開発		
評価委員	日本大学生物資源科学部 教授 東京農業大学農学部 教授 神奈川県園芸協会 事務局長 座間市生産者（元神奈川県花き園芸組合連合会 スイートピー専門委員会 委員長）		
評価概要	○‘春かなピンク’は神奈川県として初めて出した春咲き性品種である。園芸協会で種子を販売しているが、実際栽培してみた結果を聞くと、従来の冬咲き性品種に比べて現地からは春先まで収穫できることから一定の評価は出ている。 ○スイートピーの育種を行っている県は宮崎と神奈川である。品種のバリエーションを持つことは育種では重要である。育種の力で新しい品種を追加していき、よりインパクトのある品種育成を神奈川県に期待している。 ○スイートピーには夏咲きがあり、春咲きに比べさらに耐暑性は強く、将来を考えると夏咲きのことも考えておいた方が良い。夏咲きと冬咲きを交配して、その中で形質の良い夏咲きを選抜し、切り花用に利用していく方法もある。 ○育種は、1品種だけでは広がらない。広がりを目指すのなら同じ性質のものを何色か揃えた方が良い。春咲き性の品種で同じような形質のものを増やすと良い。 ○タイベックマルチには、地温抑制効果もあるかもしれないが、複合的に光の反射率などの影響も当然考えられる。そこを明らかにするのであれば、光の反射マルチも併せて検討するとか、もっと積極的に地温の制御をするなど、別途研究した方が良い。 ○種子処理に物理的な方法は考えていないか。昔茶筒に砂利と種子を入れてふるといふ、物理的に傷をつける方法を行っていたが、そういう物理的な方法を検討すると良い。 ○スイートピーは、切り花として本来の生花の魅力をそのまま観賞して楽しんでもらうことを目的にして育種を進めていくが、販売者や消費者目線からは逆に加工しやすいものを育種することで販路が広がっていく可能性がある。特性を生かした試験研究を進めてほしい。高温対策は、どの県でも非常に悩ましい問題で、今後世界的に対処しないといけない課題だと思うので、今後でも取り組んでいってほしい。そこには当たり前だが科学的な裏付けを持ちながら取り組む努力してほしい。		